

2012年度わが国貿易収支、経常収支の見通し

2011年12月2日(金)
社団法人日本貿易会

I. 要旨

1. 商品別貿易の見通し(通関ベース)

● 2011年度 ~ 震災の影響で輸出は微減、輸入は増加

輸出総額は、前年度比 2.0%減の 66 兆 4,610 億円。前年度は大幅な伸び(同 14.9%増)を示したものの、東日本大震災の影響などにより減少に転じる。内訳を見ると、輸出数量は同 1.4%減、輸出価格は同 0.6%減となる。

輸入総額は、前年度比 7.4%増の 67 兆 0,310 億円。輸入数量は同 0.4%増、輸入価格は同 7.0%増。輸入価格は、資源価格上昇等を背景に大幅に上昇する。

● 2012年度 ~ 生産の回復とともに輸出は増加、輸入は微減に

輸出総額は、前年度比 4.1%増の 69 兆 1,730 億円。輸出数量は同 4.1%増となり、輸出価格は横ばい。

輸入総額は、前年度比 1.6%減の 65 兆 9,650 億円。輸入数量は同 2.4%増となるものの、資源価格が下落に転じることから輸入価格は、同 3.9%減となる。

2. 経常収支の見通し

● 2011年度 ~ 貿易・サービス収支が赤字に転じ、経常収支は減少へ

経常収支は、所得収支黒字が増加するものの、貿易・サービス収支が赤字に転じることから、12 兆 3,970 億円と黒字が縮小。

貿易収支は、輸出の減少と輸入の増加により大幅に減少し、かろうじて 9,420 億円の黒字にとどまる。サービス収支は、旅行収支などの悪化を受けて 1 兆 7,280 億円と赤字幅が拡大。この結果、貿易・サービス収支は 3 年ぶりに 7,860 億円の赤字に転じる。一方、所得収支は、円高や金利低下にもかかわらず、順調に伸びて黒字は 14 兆 2,020 億円に達する。

● 2012年度 ~ 経常収支黒字は震災前の2010年度の水準まで回復

経常収支は、貿易・サービス収支が再び黒字に転じ、所得収支も前年度並みの黒字となることから、16 兆 1,940 億円とほぼ 2010 年度の水準に復帰する。

貿易収支は、輸出が増加して輸入が減少に転じることから、貿易黒字が 4 兆 5,100 億円に拡大する。サービス収支赤字は 1 兆 5,580 億円と前年度からやや減少する。この結果、貿易・サービス収支の赤字は 1 年限りとなり、2 兆 9,520 億円の黒字となる。また所得収支黒字は、前年度並みの 14 兆 3,170 億円を見込む。

お問い合わせ :

社団法人日本貿易会 調査グループ

〒105-6106 港区浜松町 2-4-1 世界貿易センタービル 6F

Tel: 03(3435)5959 Fax: 03(3435)5979 e-mail: iar@jftc.or.jp

<http://www.jftc.or.jp> …HPより全文ご入手いただけます。

Ⅱ. 総括表

【 通 関 貿 易 】

	2010年度 実績		2011年度 見込み		2012年度 見通し	
	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)
通関貿易収支	5,379	+192	▲ 571	-5,949	3,208	+3,778
輸 出	67,792	(14.9%)	66,461	(-2.0%)	69,173	(4.1%)
数量要因		14.6%		-1.4%		4.1%
価格要因		0.2%		-0.6%		0.0%
輸 入	62,413	(16.0%)	67,031	(7.4%)	65,965	(-1.6%)
数量要因		12.4%		0.4%		2.4%
価格要因		3.3%		7.0%		-3.9%

【 経 常 収 支 】

	2010年度 実績		2011年度 見込み		2012年度 見通し	
	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)	(10億円)	対前年度比増減 (伸び率)
貿易・サービス収支	5,223	+441	▲ 786	-6,009	2,952	+3,738
貿易収支	6,496	-104	942	-5,554	4,510	+3,568
輸 出	64,451	(16.0%)	63,186	(-2.0%)	65,764	(4.1%)
輸 入	57,956	(18.4%)	62,244	(7.4%)	61,254	(-1.6%)
サービス収支	▲ 1,273	+546	▲ 1,728	-455	▲ 1,558	+170
所得収支	12,078	+2	14,202	+2,124	14,317	+115
経常移転収支	▲ 1,175	-99	▲ 1,018	+157	▲ 1,074	-56
経常収支	16,126	+344	12,397	-3,728	16,194	+3,797

(注)金額は億円単位を四捨五入

Ⅲ. 今回見通しの特徴

日本経済は2008年の世界金融危機による大打撃から3年後に、今度は「3/11」東日本大震災という試練に遭うこととなった。さらにタイの洪水もあり、産業界は内外のサプライチェーン問題に苦しんでいる。また欧州債務危機の深刻化に伴い、世界経済全体の減速傾向が明らかになりつつある。日本経済は円高傾向による空洞化懸念や、新興国による追い上げにも直面している。

こうした中でわが国の貿易構造にも大きな変化が生じている。輸出の落ち込みや原発の代替燃料の輸入急増などにより、2011年度上半期の貿易収支は1兆6,732億円の赤字となっている。このまま貿易赤字が定着するのではないか、あるいは近い将来に経常赤字に転じるのではないかと悲観論も少なくない。しかし当会見通しからは、意外なほどに逞しい日本経済の姿が浮かび上がってくる。

輸送用機器、一般機械、電気機器などの主力輸出品目は、2012年度には揃って増加する。2011年度に急増した鉱物性燃料の輸入は、資源価格の下落などによって2012年度には減少に転じる。結果として貿易・サービス収支は2011年度に赤字に転じるものの、2012年度には再び黒字に戻る。所得収支も拡大し、2012年度の経常収支は2010年度と同じ16兆円程度に回復する。

当会の貿易動向予測は、専門委員会に参加する8商社が社内外へのヒアリングを行い、商品別の積み上げを行なう点に特色がある。その過程からは、以下のような興味深い事象も浮かび上がってくる。

- 食料品輸出は金額が小さく、例年は目立たない存在であるが、震災による水産物の被害や風評被害などが懸念されている。2011年度は前年度比約1割の減少を見込むものの、2012年度には増勢に転じる見通しである。
- 電気機器では一部商品のコモディティ化が指摘されているが、新製品への需要が急拡大している。特に海外製スマートフォンへの切り替えにより、通信機輸入が急増している。かつては電気機器輸出の代表的品目のひとつであった通信機は、今では輸入が輸出の約4倍にも達している。

IV.商品別貿易の見通し(通関ベース)

1. 輸 出

◆◆◆2011年度◆◆◆

震災の爪あととは深く、輸出は前年度の2ケタ増から3年ぶりに減少に転じ、前年度比2.0%減となる。内訳は、輸出数量が同1.4%減、輸出価格が同0.6%減となる。

商品別に見ると、一般機械は前年度の大幅増の後で伸びが鈍化する。電気機器も震災の影響と円高の影響により、減少に転じる。自動車は北米需要が回復したものの、震災被害による上半期の供給制約の影響が大きく、通年では減少となる。鉄鋼は外需不振と円高、中国・韓国勢の攻勢などから減少。化学製品も震災の影響に加え、中国需要の伸び悩みにより減少。

◆◆◆2012年度◆◆◆

外需は軟調に推移するものの、震災からの復興による供給力回復とともに輸出は増加に転じる。輸出総額は前年度比4.1%増となり、2010年度の水準を上回る。内訳は輸出数量が同4.1%増、価格は横ばいを見込む。

商品別では、一般機械は新興国のインフラ整備、資源開発需要の拡大基調などから増加。電気機器はスマートフォンやメディアタブレットなどの効果で世界的に好調なるも、円高が向かい風となり伸び悩む。自動車は欧米需要がやや弱含むが、震災影響から脱して回復に転じる。化学製品は中国などの需要が増加するが、原油価格低下を反映して小幅増となる。鉄鋼はアジア新興国の需要拡大と市況の回復により増加に向かう。

2. 輸 入

◆◆◆2011年度◆◆◆

資源価格の高騰から、震災による国内景気の不振にもかかわらず、輸入は7.4%増と前年度に引き続き高い伸びを示す。輸入数量の伸びは同0.4%増、輸入価格が同7.0%の伸びとなる。

商品別に見ると、鉱物性燃料は原油価格の上昇などを受けて前年度に引き続き2ケタの伸びを示す。原発停止による代替燃料の需要増により、LNGは同40.2%の大幅増。製油所の稼働が停止したことで、石油製品輸入も大幅に増加。化学製品は上半期に震災と円高で増加するも、下半期には増勢も一巡。食料品では、原発事故の影響による国産野菜から輸入野菜へのシフトは顕著には見られない。鉄鉱石などの原料品は、一部では復興需要による需要回復が見込まれるものの、製品輸出の不振や市況の軟調により伸び率は鈍化。自動車は日本車の輸入増、円高によるドイツメーカー車の輸入などが好調。電気機器は、一部製品のコモディティ化もあり減少。

◆◆◆2012年度◆◆◆

輸入は資源価格の低下から総額は前年度比1.6%減となる。輸入数量は同2.4%増となるが、輸入価格は同3.9%減となる。

商品別では、鉱物性燃料は原油価格、石炭価格の下落により減少。LNGなどは引き続き代替需要が見込まれるものの、金額は減少する。製油所の生産再開などにより石油製品は2ケタの減少を見込む。食料品は国内需要が低調で減少。電気機器はスマートフォン人気による通信機需要が大きく、微増に転じる。航空機は新型機導入による増加を見込む。

V. 経常収支の見通し

◆◆◆2011年度◆◆◆

輸出の減少と輸入の増加により、貿易収支は前年度を大きく下回るが、9,420億円とたかろうじて黒字にとどまる。サービス収支は、海外からの旅行者の減少に伴う旅行収支の悪化などにより、赤字幅が拡大。その結果、貿易・サービス収支は3年ぶりに赤字に転じる。一方、所得収支は円高や金利低下にもかかわらず大幅な黒字が続く。この結果、経常収支黒字は12兆3,970億円と前年度を下回る。

◆◆◆2012年度◆◆◆

資源価格の落ち着き、国内供給力の回復などを受けて、輸出は増加し、輸入は減少に転じる。貿易収支は4兆5,100億円の黒字となる。サービス収支の赤字幅はやや改善する。所得収支黒字は微増を見込む。この結果、経常収支黒字は16兆1,940億円となり、2010年度並みの水準に戻るようになる。

VI. 前提条件

	2010 実績	2011 見込み	2012 見通し
世界貿易 (暦年)	14.1 %	7.5 %	6.5 %
世界経済 (暦年・実質)	5.1 %	3.9 %	3.8 %
米 国	3.0 %	1.6 %	1.9 %
ユーロ圏	1.8 %	1.6 %	0.9 %
ア ジ ア	9.3 %	7.7 %	7.4 %
日本経済 (年度・実質)	2.3 %	0.2 %	2.3 %

(注1) アジアはIMF定義による「アジア途上国(26)」+「NIES(4)」の計30カ国ベース。

(注2) 上記の前提条件に加え、11月中旬の外国為替市場および原油市場の動向を参考に、円相場は2011年度78円/ドル、2012年度78円/ドル、原油入着価格は2011年度106ドル/バレル、2012年度97ドル/バレルとの前提条件において積み上げ作業を実施。

以上